

NEWSLETTER

日本使える学習法の会 活動ご報告書
2008年7月1日付
第4号

「学ぶ過程というのは、数ある情報の受けに
ただ情報を積み重ねていくことではありません。
それは新しい理解と物事を行うための
よりよい方法を知る過程なのです。」

L.ロン・ハバード

新しく顧問になられた先生方の推薦文

このたび、加澤恒雄広島工業大学教授（教育哲学、英語教育学）と西村次郎岡山理科大学教授（障がい児教育）が日本使える学習法の会の顧問をお引き受けくださいました。両先生とも教育分野がご専門の現職の大学教授で、そのお立場から L.ロン・ハバードの勉強の技術に深いご理解と共感をもたれております。お二人のご参加に心から感謝申し上げるとともに、これを機縁に、私共は、更に大きく前進したいと思います。

日本使える学習法の会 会長 冠地和生

広島工業大学 教授（教育哲学、英語教育学）
加澤 恒雄 氏



L.R.ハバードは、大学では数学と工学を専攻したが、生涯にわたって作家、哲学者、教育者、宗教思想家として透徹した眼で人間を全体的に把握することを試み、多くの著書を残した。人生の幸福につながる人間の「生き方」の根本である「学ぶこと」に着眼し、より良い「学び方」について、つまり学習の方法論について科学的に探求し、豊かな経験

と鋭い洞察力によって学習の在り方を「構造化」した。すなわち、まず学習の3つの障害として、1)誤解語の放置 2)マス(具体的な実体)の欠落 3)段階的学習の飛び越しを指摘し、学習の方法原理、勉強の技術を、平易な言葉と適切なイラストを駆使して順々に説く本書は、大学教育の現場で「教授=学習法」の研究を、約40年の長きにわたって続けてきた小生にとっても興味深く、かつ説得力があり、正に“ページ・ターナー”(読み出したらおもしろくて途中で止められない本)として推薦したい。

岡山理科大学 教授（障がい児教育）
西村 次郎 氏



学校の学習進度についていくことができず、このことが原因で自分の居場所がなくなったと思い込み、不登校になった事例や、小学校4年生で初めて識字力を獲得し、その結果、学習面だけでなく生活全般に生き生きとした積極性がみられるようになった事例などから、学びの楽しみや達成感は一人ひとりの人間の生きる喜びと深く関わっている事が推察できる。

学びのつまずき（障害）である 誤解語の放置、マス（具体的な実体）の欠落、段階の飛び越し、を検証し、これらを除去（解決）することによって、積極的な学び方を身につけ、自己の成長、発展につなげたい。この L.ロン・ハバード理論による具体的で実践的な『学び方がわかる本』こそ、「自己を拡大成長させる要求に根ざした主体的活動を育成し、生涯学習社会の要請」に応えるものといえよう。

総会が行われました。

4月29日、30日に日本使える学習法の会の総会が行われ、各地のセンター代表やインストラクターが東京に集まりました。

会計報告、事業報告だけでなくさまざまな議題を取り上げられ、有意義な会議となりました。今回は特定非営利活動法人設立の意思決定を決議しました。

写真 総会の様子



写真 総会の様子



写真 代田先生（後列左から3番目）と集合写真



勉強の技術を大学教育学会と雑誌で紹介

2008年6月8日、東京・新宿区の目白大学で行われた第30回大学教育学会の分科会で、加澤恒雄広島工業大学教授が「役に立つ教育内容の例としては、ロン・ハバード先生の開発した勉強の技術があります」と報告しました。これは、加澤氏と冠地和生氏の共同研究「私学経営改善における『教育の質』の重要性について」の発表の中でのことです。限られた時間内だったので勉強の技術への反応は特にありませんでしたが、学会の参加者全員に配布された「発表要旨集録」の当該共同研究欄には、L.ロン・ハバードのコミュニケーションの公式および勉強の技術が紹介されています。おそらく、日本の大学教育の学会でL.ロン・ハバードの名前が紹介されたのはこれが初めてだと思われます。

なお、2008年2月発行の「広島工業大学紀要 教育編 第7巻」に、同じ表題で両名の論文が掲載され、ここでは、L.ロン・ハバードの技術として「コミュニケーションの公式」「勉強の技術」「コーチング」が紹介されています。この論文は、雑誌「学校法人」5月号(学校経理研究会)にも掲載されました。これは、私立の大学、短期大学等の経営者はもちろん理事あるいは教職員が読む雑誌です。

